

# 「情報リテラシ演習」

**log on** して待機

( [Ctrl]+[Alt]+[Delete] で **log on** )

「情報リテラシ」＝「情報の読み書き能力」

「情報(データ)」を

受信・処理・創出・発信

する総合的かつ基礎的な素養

本授業では、本学の全学共通の必修科目として、「情報」を扱う際の基本的な考え方を身に付け、それを活用できるようになることを目標とする。

「情報 (データ)」とは、必ずしも  
コンピュータで扱う電子的なものに限らない

問: 何故「情報 (データ)」を電子化するのか？

コンピュータをより便利に使うための手掛かり

- 活きた (再利用可能な) データは価値が高い
- 死んだ (再利用不可な) データは価値が低い

「使い回しの心」

- 電子化によって期待するメリットは？
- 電子化の手間がメリットに見合うか？
- 電子化にどのような方法を取るべきか？

→ 場合によっては電子化しないことも  
「情報リテラシ」のうち

「電子化のための電子化」  
であってはならない!!!

## 面倒くさがろう!!

- 「こんなことは機械にやらせれば」
- 「こんなことは自動的に出来ないかな」

そういうことは

- 大抵みんなが思っている
- 大抵誰かがやっている

→ 大抵 (調べれば / 考えれば) 出来る

授業時課題・レポート提出にも使うので、

まずは電子メールの送受信から。

**“Active! Mail”** を使う

## “Active! Mail” の使い方

起動:

[Active! Mail] をダブルクリック

→ ユーザ ID・パスワードを入れてログイン

終了:

必ず「ログアウト」で終了

(最初に終了の方法を覚えよう)

では、  
再度起動してメール送受信の実習へ移ろう。

メールを読む: [メール受信] タブをクリック

メールを送る: [メール送信] タブをクリック



実習: まずは自分宛に送ってみよう。

- 「宛先」に自分のメールアドレス
- 「本文」は適当に
- 「署名」は  
(作っていなければ) 仮に自分の名前

## 実習: メール受信 → 返信

- 宛先は自動で入っている  
→ 送信前にくれぐれも確認!!
- 件名も自動で入っている:  
“Re: ...” = 「...について」
- 元メールが “> ” で引用されている  
→ 必要部分だけ残して引用
- ★ 全体の文意を歪めた一部のみの引用で  
誇張・曲解にならぬよう注意
- ★ ビジネスでは後ろに全文を付ける習慣も

「署名」を作ってみよう:

「ツール」 「署名管理」

- 4行以内が慣習 (大きくし過ぎない)
- 名前・所属などを入れる

電子データは

プレインテキスト (plain text)

が基本

プレインテキストで済むものは

プレインテキストで済ませる

- 誰でも (どんな環境でも) 確実に読める
- 容量が小さく、  
コンピュータ・ネットワークへの負荷が少ない
- 引用・検索・自動定型処理が出来るなど  
使い回しが効く

前回のアンケートの集計:

## こういうときこそ電子化!!

元々のデータを電子データとして作れば良い

注意点:

- 後で**自動処理**・**再利用**することを念頭に
- 決まった形式 (**データフォーマット**) で作る
- 再利用の方法からデータの形式を考える

**プレーンテキスト (plain text)**

… 再利用し易いデータ形式

(前回の)課題 1: まだの人は早急に提出のこと  
アンケートを次の形式でメールで提出

- 件名 (**Subject**) は enq
- 本文に、1 行 1 項目で、

A:0

B:1

C:1

a:5

b:3

...

の形式で書く (空白も空けない)

## 自動処理の見本をお見せしましょう

- みなさんのアンケート回答を  
集計プログラムにより瞬時に集計
- みなさんから届いたメールから  
差出人メールアドレス (**From**) を抜き出して  
全員に一斉に返信

(参考: JR 線の車内映像の某パソコン教室の CM)

この返信 (受領確認) メールの主宛先は  
受講生のみなさん一人一人なので、  
本来は宛先 (To) に並べればよいのですが、

今、みなさんに一斉に返信したときには、

次のようにしました。

- 宛先 (To) は自分のメールアドレス
- 一斉送信先を **Bcc** に並べる



## メールの宛先:

- 宛先 (**To**): 主宛先
- **Cc**: 副宛先 (**Carbon Copy**)  
→ 自分宛に送っておくと良い
- **Bcc**: これも副宛先だが、  
送ったことが他の宛先に知られない  
(**Blind Carbon Copy**)

実は Cc で送った副宛先は、  
送ったことが他の宛先にも伝わっている。

受信メールを読んでいるときに、

[操作を選択] → [ソース表示]

とすると、実際に届いているデータが見られる。

この方法は、本来の意味とは異なるが、

一度に大勢に送信するとき、特に、

- みな自分とは知合い / 関わりがあるが、
- 宛先同士が必ずしも知合いではない場合

に良く用いられる。

## 課題 2:

このような方法を採る理由(メリット)は何か？

- 件名 (**Subject**) は 1013
- 本文に普通に (プレーンテキストで) 書く
- 添付ファイルは用いない
- 課題の答えに加えて、  
授業の感想などを書いてもいい

今回のテーマ:

## WWW (World Wide Web)

というか、Internet の話。

コンピュータ同士を繋いで

情報のやりとり (通信・共有) をする、

という構想は、1960年頃からあった。

→ 実用的になったのは、1960年代末  
(ARPANET)

## ARPANET:

ARPA (米国防総省高等研究計画局)

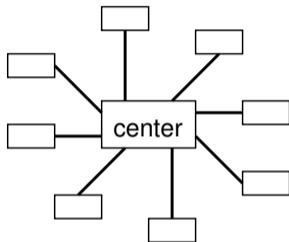
主導のネットワーク

特徴：分散型ネットワーク

(特定の中心を持たない)

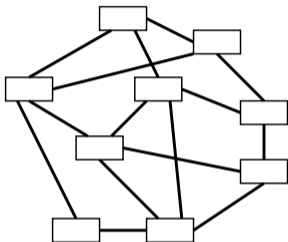
→ 災害・攻撃に強い

## 集中型



中心が壊れると  
機能しない

## 分散型



どこか壊れても  
機能する



# ARPANET

- 軍事用・学術研究用に分離 (1980年代前半)
- 学術研究用ネットワークが普及  
(多くの大学・研究所が参加)

日本では、

- **JUNET (1980年代中頃から)**
- **WIDE Project (1980年代後半から)**

大学・研究所が中心の  
学術研究目的ネットワーク・プロジェクト

→ **1990年代前半にパソコン通信と相互接続  
(異文化同士の接触であった)**

当初は学術研究・非営利目的に限定

→ 1990年代中頃に商用利用容認

→ 以後、爆発的に広まる

**internet** は元来普通名詞であるが、

現在では、世界に広まったこのネットワークを

**the Internet** と呼んでいる。

## インターネット利用の情報の流通

- 電子メール
- ファイル転送 (ftp)
- ネットニュース
- **World Wide Web (WWW)**

など

## World Wide Web (WWW)

1980年代末～90年代初頭に開発

元々は **CERN** (欧州原子核研究機構) に於いて

各国の大勢の研究者同士で

研究情報を共有するための仕組みとして

開発された。

**HTTP (HyperText Transfer Protocol)**

によってデータの送受信を行なう

## HyperText

データ (テキスト) 同士が**リンク**で繋がっている  
… ハイパーリンク (hyperlink)

**HTML (HyperText Markup Language)**  
などで記述される

ハイパーリンクを手軽に辿れるソフトウェア  
(ウェブブラウザ (web browser)) の開発が

**WWW** の爆発的な普及に繋がった。

## WWW 上の情報検索

WWW での情報共有機能は、  
情報検索の的確化・効率化によって  
一挙に世界を変えるに至った、  
と言っても過言ではない。

→ 詳しくは次々回

次回は、

中央図書館の情報検索サービス (OPAC) の演習

(授業の場所はここです。)